



日本共産党市会議員

館田るみ子活動だより

第57号

二〇一五年一月
日本共産党東青地区委員会
青森市中央三丁目二一―十五
〒七七七―七二四一
市役所内 内七二二―八九〇四

米価暴落で市が国保税などの減免と ナラシ対策加入金への助成

館田るみ子市議は、改選後に行われた十二月議会
会で、米価暴落対策、障がい者福祉、岡田橋の歩
道拡幅、油川小学校の通学路の冠水対策等につい
て質問しました。また、十二日に行われた総務企
画常任委員会で議員報酬を15%削減する修正案
を提出しました。

生産者米価の仮渡金が
昨年比3割減の過去の九月
十八日、日本共産党青森
市議団と小泉重年農業委
員は、鹿内市長に「新た
な借入金への利子補てん
や国保税等の減免」等を
求めて緊急の申し入れを
行いました。

館田るみ子市議は十二
月議会で「生産者米価暴
落による市の支援策を示
せ」とあらためて質問し
ました。

国保税等の減免

チラシで周知

鹿内市長から「国保税
等の減免制度については、
農家へのチラシ配布など
により周知、相談に努め
る」「利子補てんについ
ては国の農林漁業のセー

フティネット資金や農協
からの借入を実質無利子
化する県の利子補給金を
活用できるので周知する」

ナラシ対策加入金の 一部を助成する

一部を助成する

「市としてはナラシ対
策に加入しようとする担
い手農業者の拠出金の一
割を助成する本市独自の
『米・畑作物の収入減少
影響緩和対策加入促進支
援事業』を立ち上げ、二
七年度から三ヶ年間実施
することにしました」と答弁
がありました。

館田市議は「拠出金が
いらぬ制度は、補てん
額は下落分の34%程度
で、セーフティネットに
なり得ていないし、市の

ナラシ対策とは
米価が全国平均より下
がった場合に収入減少額
の9割が補てんされる制
度。補てん額の4分の1
にあたる積み立て（拠出
金）が必要（国が3/4、
本人1/4）

支策も27年度からな
ので、米づくりへの意欲
をなくし、他都市のよう
に自ら命を絶つと言う痛
ましい犠牲者を出さない
ためにも常時開設してい
る相談窓口の設置が必要
と求めました。

もとアメリカの余剰農産
物の押し付けで小麦を原
料にしたパン食に誘導さ
れ、米の消費が激減して
きたことと、TPPで関
税が撤廃されるとアメリ
カやベトナムなどからコ
メがどんどん入ってくる
ことになり、生産調整が
機能しなくなるので、政
府は米の需給と価格安定
の責任を放棄している」
と批判し「今また、政府
が主食用米の生産を減ら
す切り札として飼料用米
への転換を助成金を増額

TPP前提に 需給と価格安定の 責任放棄

館田市議は米価下落の
原因だと言われている
「過剰米の原因は、もと

議員報酬の15%削減に反対
してきた議員たちは、改選後の
議会で、新しく選ばれた議員で
報酬額を決めればいいと言って、
市民の批判をかわしてきました
が、鹿内市長が十二月議会で1
0%の削減を提案してきました。
賃金はあがらず、年金は減ら
され、そのうえ消費税の引き上
げで市民のくらしはますます苦
しくなっている中で、10%の
削減では市民の理解は得られな
いと、日本共産党は、15%削
減の修正案を提案しました。

議員報酬「10%削減」で幕引き 市民の理解得られるのか

賛成したのは、日本共産党と
新政無所属の会と無所属議員の
計14人でした。
選挙前の候補者アンケートで
は、10%削減が妥当だと答え
た人は5人だけだったのに、お
手盛りだと批判されてきた10
%と同額で幕引きを図るのは、
有権者を裏切る行為ではないで
しょうか。

15%削減すれば、4年間で
は2億700万余円になります。
その分を市民のくらしや福祉に
まわすことが出来ます。

してまで勧めているが、
TPPで畜産農家が激減
すれば、飼料用米も米と
同じように過剰となって
しまう」と指摘し、安倍
政権の農業つぶしから本
市の農業と農家をしっか
り守り支えていくよう求
めました。

アンケートで 寄せられた要求が実現

生協新城店そばに ミラーが設置される



新議会で所属委員会
総務企画常任委員会
副委員長
雪対策特別委員会
委員長
農業委員

石江江渡の住宅地から
生協新城店付近の県道に
出る時に、右側から来る
歩行者や自転車が見えず、
接触事故が起きているの
で「ミラーを設置してほ
しい」との要望が市民ア
ンケートで寄せられ、諏
訪益一県議と交渉してい
ましたが、「N.T.T柱に
取り付け許可を得たうえ
で右方確認用のミラーを
設置する」と連絡があつ
たのちに設置されました。

都市計画道路の建設より 岡田橋の歩道橋設置を優先すべき

歩道部分がない岡田橋について、歩行者や自転車で通勤通学する地域住民や北高生が安全に、そして安心して通行できるようにと、館田議員は繰り返し質問を続けています。



市は「歩道整備は必要だと考えているが、他の道路整備事業の整備状況や緊急性、優先度を勘案し、全市的な視野で整備時期を検討する」との答弁を繰り返してきました。4年前には、鹿内市長も「岡田橋については整備をしまいります」と答弁しています。

6月議会では、「岡田橋は、架け替えではなく修繕により長寿命化を図ることになったので、歩道橋を整備することになる」と答弁があり、12月議会でも「岡田橋の路肩部分を自転車や歩行者が通行している現状は把握しており、整備にあたっては、新たに歩道橋を整備しなければならないものと考えている」と答弁がありましたが、整備時期については示しませんでした。

都市計画道路3・4・16号油川岡町線とは、

油川千刈地区の国道280号(地図の①)からJR津軽線、市道森林軌道廃線通り線(②)を経て、国道280号バイパスまでの延長約1,560m、幅員20mの道路を言います。

そのうち、国道280号からJR津軽線との立体交差(③)を含む市道森林軌道廃線通りまでの約740mの区間については、平成5年度から着手し、国道から約390mの区間(④)については供用を開始しています。

一方、市道森林軌道廃線通りから国道280号バイパスまでの約820mの区間(⑤)については、14年度から用地買収を進め、用地買収完了後に整備を進める予定になっています。

しかし、JR津軽海峡線との立体交差部分については「多くの費用と期間がかかるので、他の街路事業などの実施状況を見きわめた上で整備時期を検討してまいりたい」との答弁が続いていました。

メドもたない道路の建設は、見直すべきと提案

館田るみ子市議は、6月議会で「少子・高齢化の時代に立派な道路ばかりあっても、費用対効果は本当にあるのだろうか」と指摘をし「いつ完成するのかメドもつかない道路の整備は見直しをして、交通安全対策が求められている岡田橋の歩道橋の整備を急ぐべき

でないか」と指摘していました。

これに対し「市としても費用対効果について検証している」と答弁がありました。

12月議会で、館田議員が再度質問したのに対し、「厳しい財政状況の中で事業継続は困難。側道整備までは実施するが、鉄道交差部などの残事業分については、当面事業を休止する予定である」と答弁がありました。

あらたな道路の整備より岡田橋の歩道橋整備を急ぐべき

館田議員は「森林軌道廃線通り線から280号バイパスの道路(⑤)についても見直すべき」と提案しました。

残りの用地買収(約500万円)にあと1~2年かかり、道路整備(6億3500万円)にあと数年位かかるということは、緊急性はあまりないということになるし、線路との交差部分の事業が中止になると、岡田橋を通る車がいつそう増えることとなります。岡田橋の歩道幅がされないまま、新たな道路が出来て、森林軌道廃線通り線につながると、岡田橋上での接触事故の危険性がいつそう高まることとなります。

館田議員は、あらたな道路の整備をする前に岡田橋の歩道橋整備の方を急ぐべきと要求しました。

油川小学校通学路の冠水防止策は

「通学路付近では、周辺からの複数の水路が合流しているために、ゲリラ豪雨などの大雨の際には側溝の排水能力を上回る水量が流入し、道路冠水が発生している可能性があることを確認した。

対策として、流入する水量を分散するために、北高校の東南角付近の水路に分水施設を設置し、振り分ける工事を年度内に実施する。

その後については、工事の結果を見たらうえて、必要に応じて、さらなる調査・検討を進める」と答弁がありました。

病児保育所の増設が実現へ

館田市議は、2010年の6月議会で視察した松江市や出雲市が地域バランスに配慮して、それぞれ4カ所に病児保育所を設置していることを紹介して、増設すべきと質問をしてきました。

青森市もようやく増設に向けて動き出しました。来年度は、2カ所(うち1カ所は浪岡地域)増設し、その後、西部地域などにも増やしていく計画です。

財産区の道路、市道への手続きへ

9月議会で、管理できない財産区所有の道路を市が貰い受けて管理すべきでないかと取り上げましたが、石江財産区所有の道路のうち要件が整った道路を市へ移管する手続きを進めることにしたと報告がありました。
